

初期京焼を科学する

- 「特別展示 京焼の萌芽」関連調査の報告 -

東京文化財研究所 保存修復科学センター 伝統技術研究室長

北野 信彦



テーマ1

軟質施釉陶器である初期京焼の

基本的な作陶方法と、

そのルーツは？

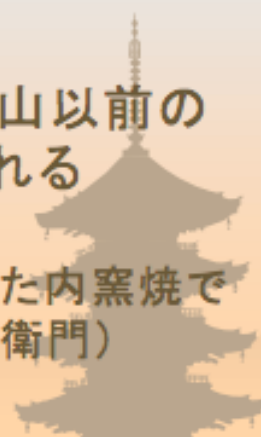


初期京焼とは何か？

・近世初頭期～江戸時代前期の洛中や伏見城下町遺跡から出土する茶陶類のなかで、京都でつくられた鉛釉系の軟質施釉陶器

・京焼を完成させた野々村仁清・尾形乾山以前の押小路焼（今焼）の存在が想定される

（乾山の『陶工必用』には、唐人から伝えられた内窯焼で陶器をつくる押小路焼物師一文字屋助左衛門）

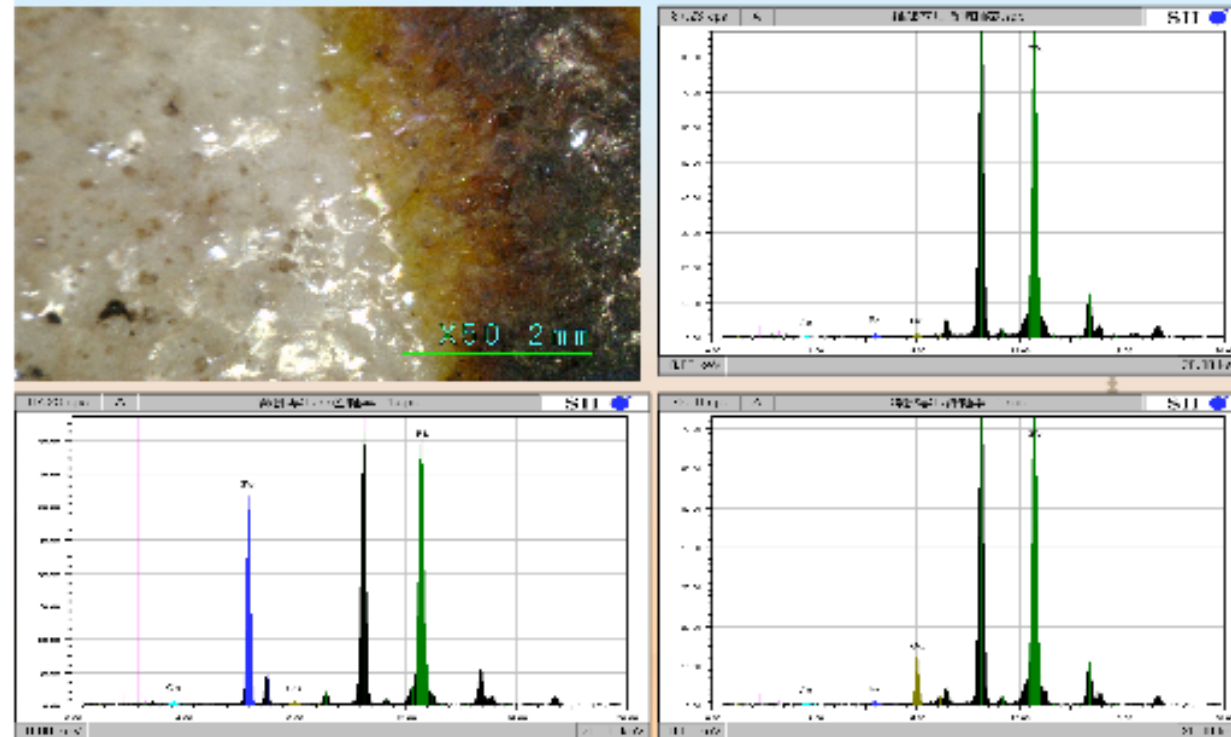


初期京焼の技術：赤く発色する胎土に、
白化粧土を塗布

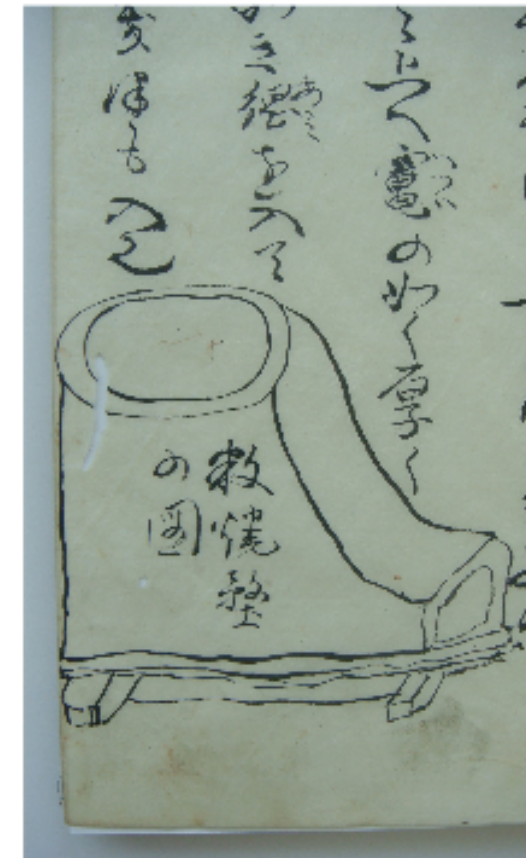
胎土＝黒谷土or遊行土（聚楽土＝鉄分の多い黄土？）
白化粧土＝黒谷白土or遊行土1斗＋山科石3升程度



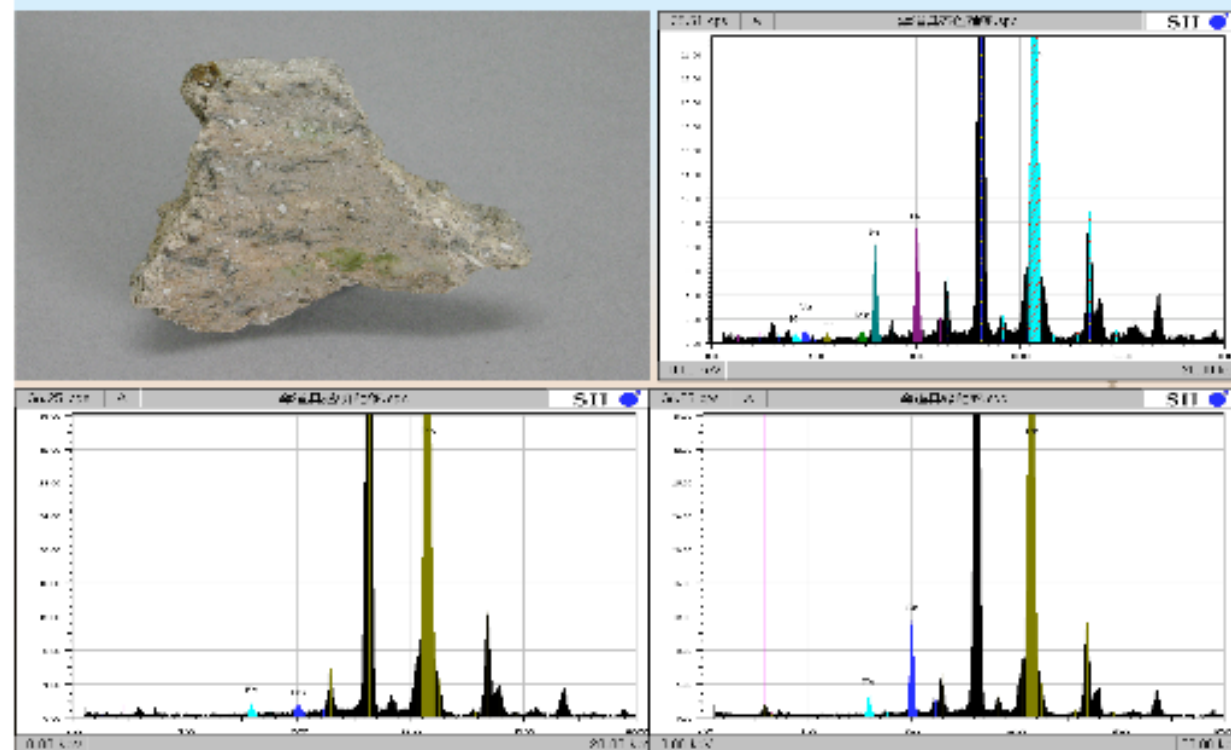
いずれも基本は灰釉ではなく、鉛釉



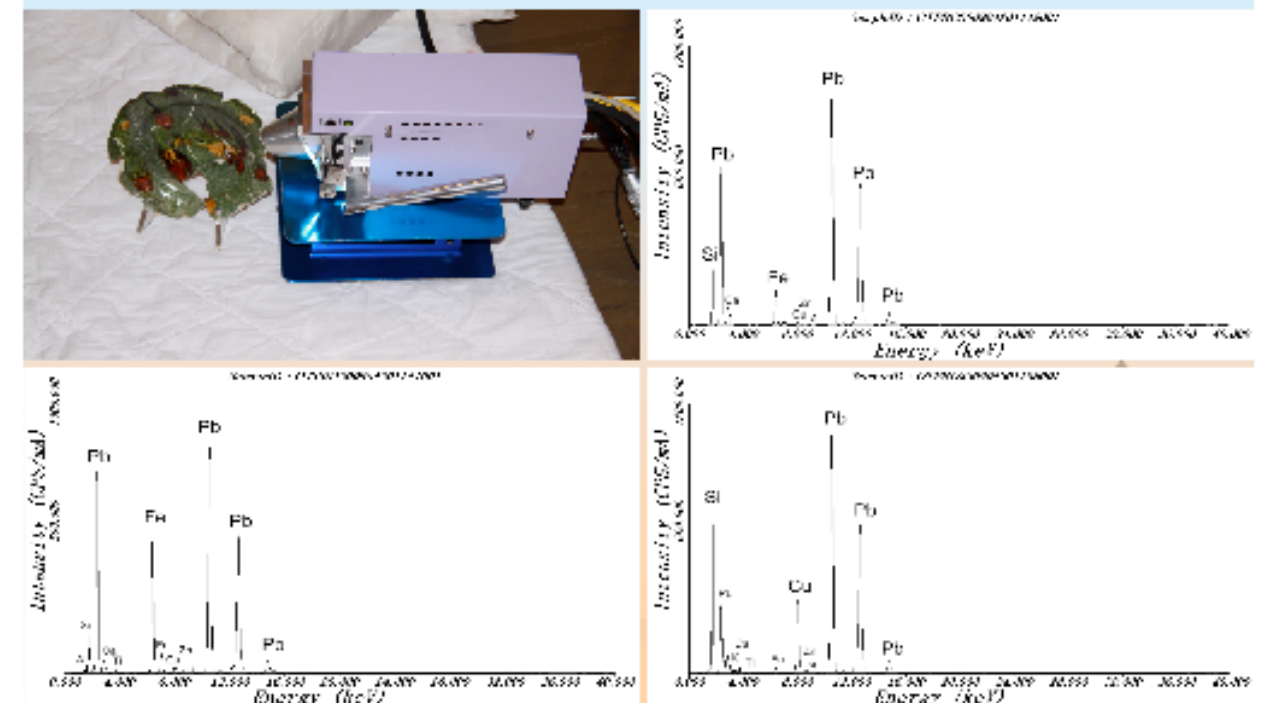
作陶は、連房式登り窯（山窯）ではなく、京都洛中の工房内において小規模な内窯で行う



サヤ鉢に付着した釉薬も、初期京焼と同じ鉛釉



結論：華南三彩色写しの初期京焼の釉薬も、華南三彩とおなじ鉛釉を使用



テーマ2

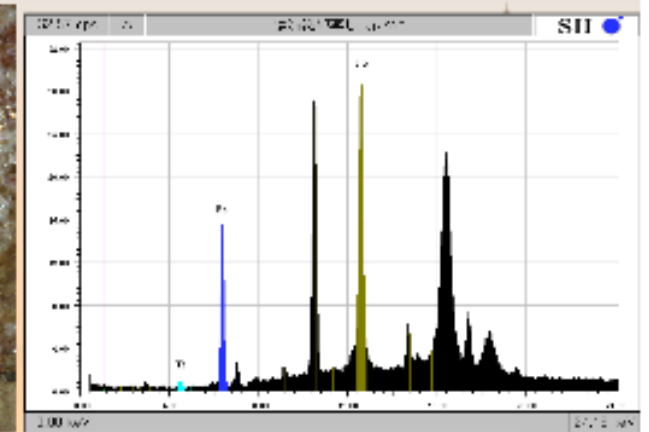
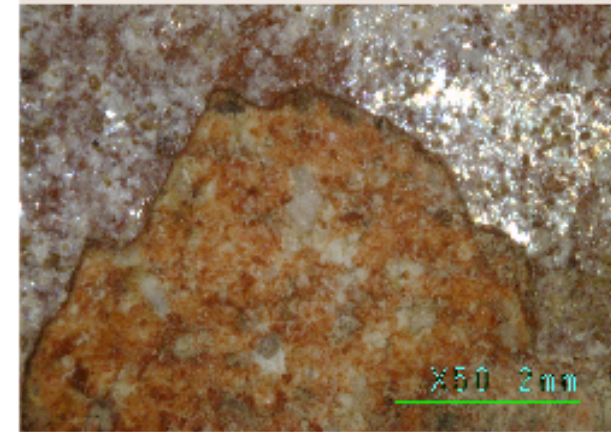
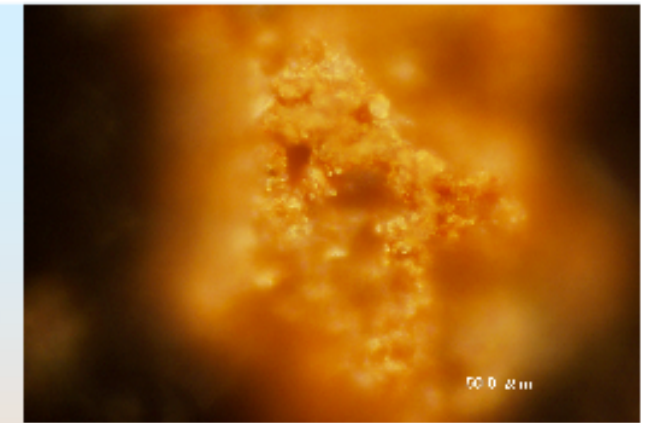
織部風の初期京焼(軟質施釉陶器)と、

美濃織部焼(元屋敷古窯産)

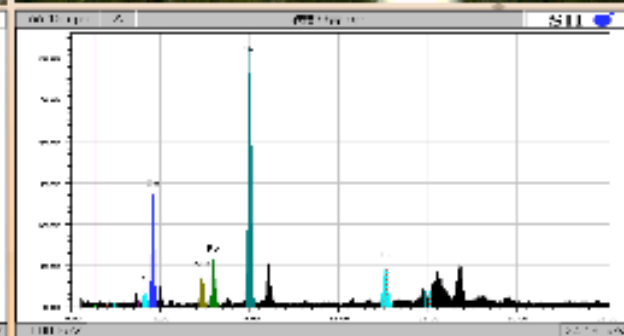
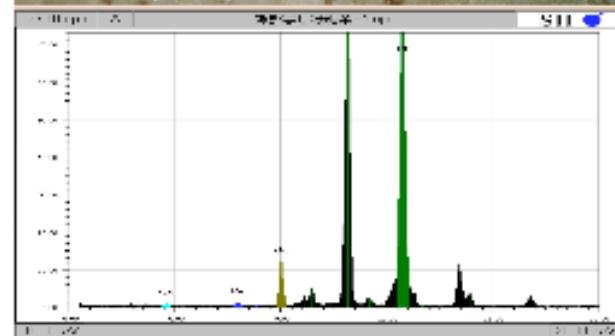
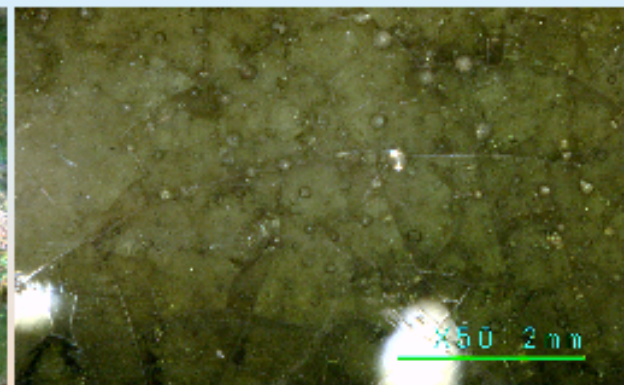
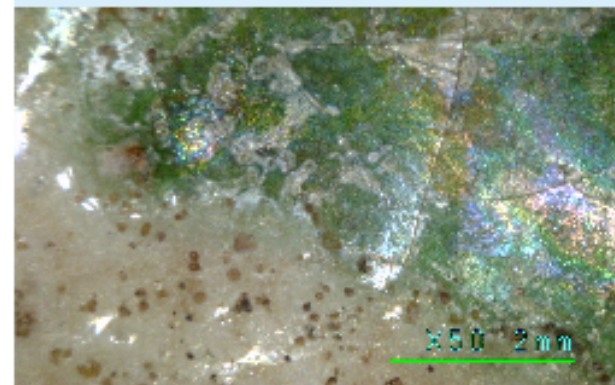
との関係は？



鳴海織部風初期京焼は、
(1)白い胎土にベンガラ・
緑青顔料の下絵〜(2)透明
の鉛釉掛け〜(3)絵柄と緑
の雲彩色を上絵付け〜(4)
本焼き仕上げ



織部風初期京焼は鉛釉vs美濃織部は灰釉



結論

織部風の初期京焼(軟質施釉陶器)と桃山茶陶である
美濃織部焼(元屋敷古窯産)とは、同じ茶陶でも

- (1)基本的な作陶方法(内窯vs連房式登り窯)
- (2)釉薬材料(鉛釉vs灰釉もしくは長石釉)
- (3)下絵付けの方法、などが大きく異なる。

それでは両者の関係は？

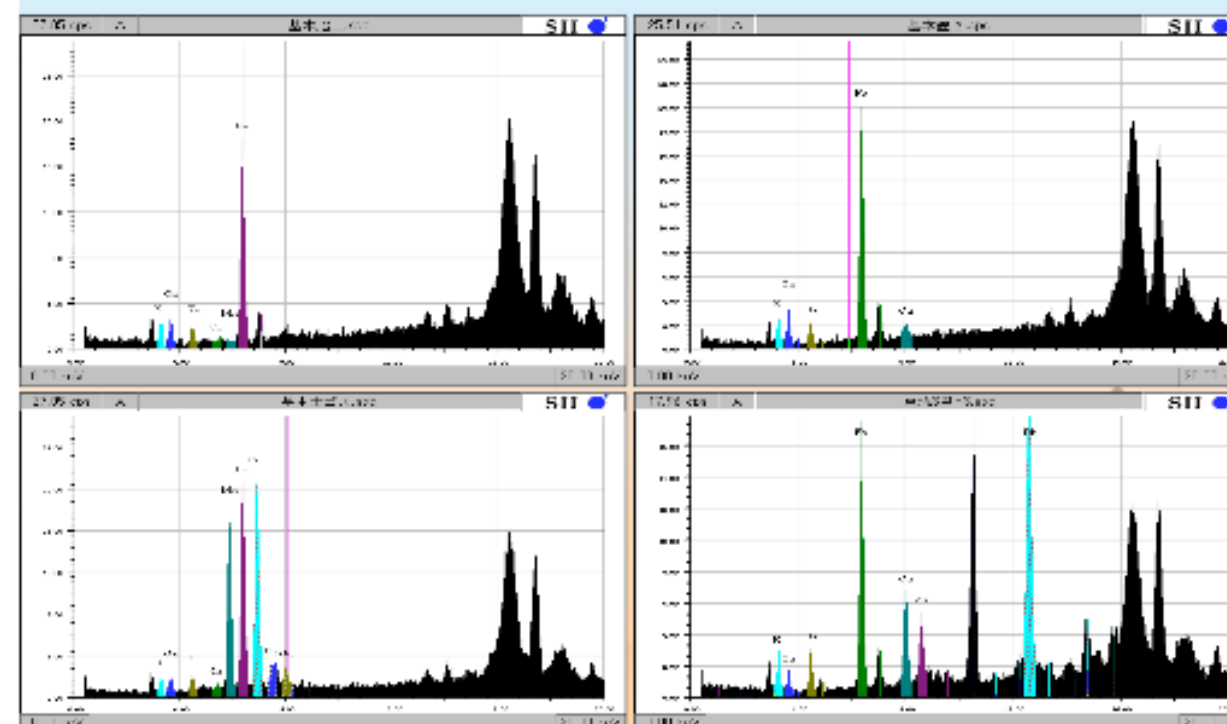


テーマ3

京焼の巨匠：野々村仁清・尾形乾山の
作陶技術は突然生まれたのか？

乾山の『陶工必用』が記す、初期京焼
との関連性が想定される押小路焼とは
どのような陶器か？

結論：下絵の材料は呉須ではなく墨書



疑問1：下絵の材料は墨書か呉須か？



疑問2：赤い色絵のルーツは？

(緑・褐色釉とともに、赤色釉が登場)



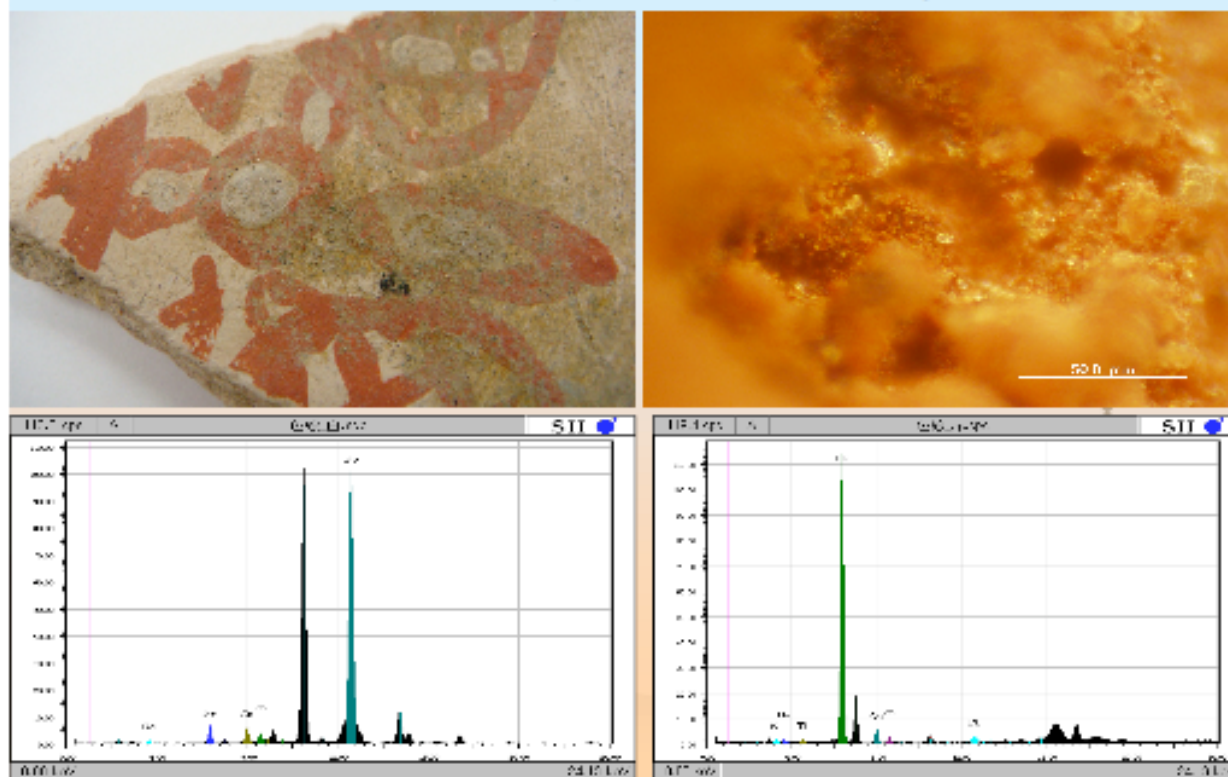
フリット(白玉釉薬の白玉)をつくり、これをすりつぶして
布海苔+水に混ぜて赤い釉薬絵具として塗布？



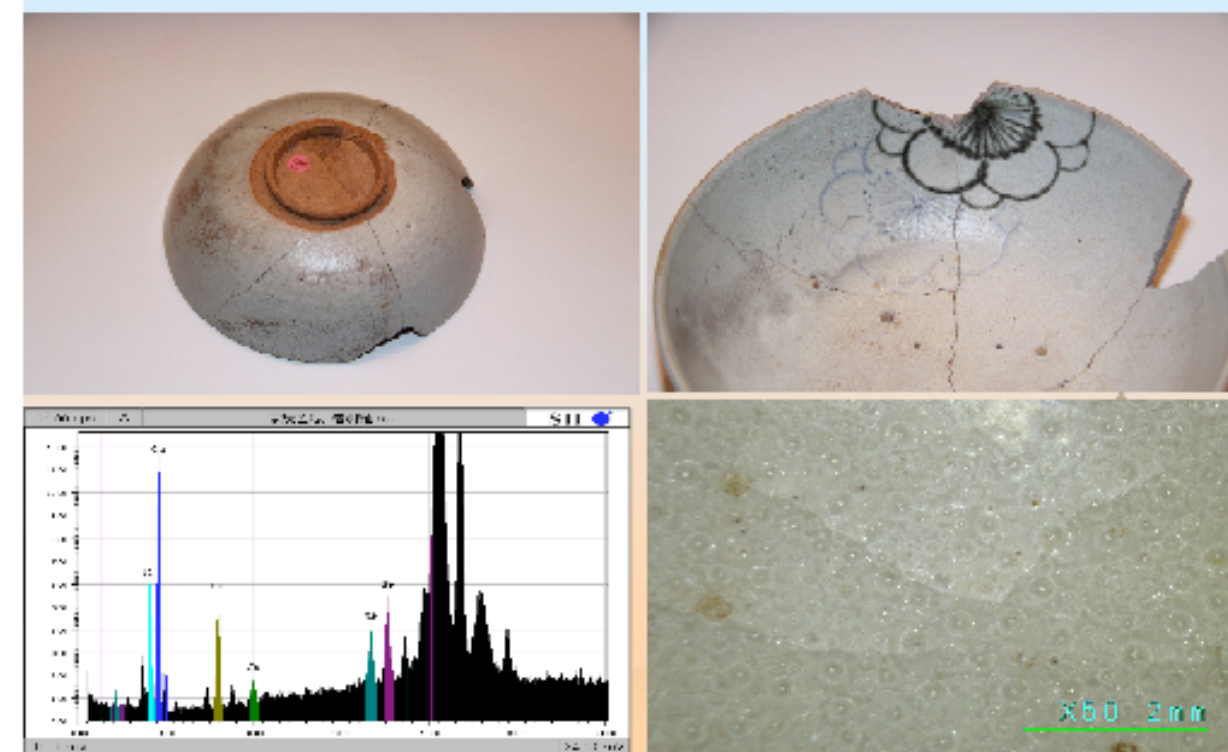
結論

有田で柿右衛門の色絵磁器が誕生する
以前に、京都では良質な人造ベンガラ
(ローハベンガラ: 礬紅もしくは弁柄と
呼称)による色絵陶器が作られていた

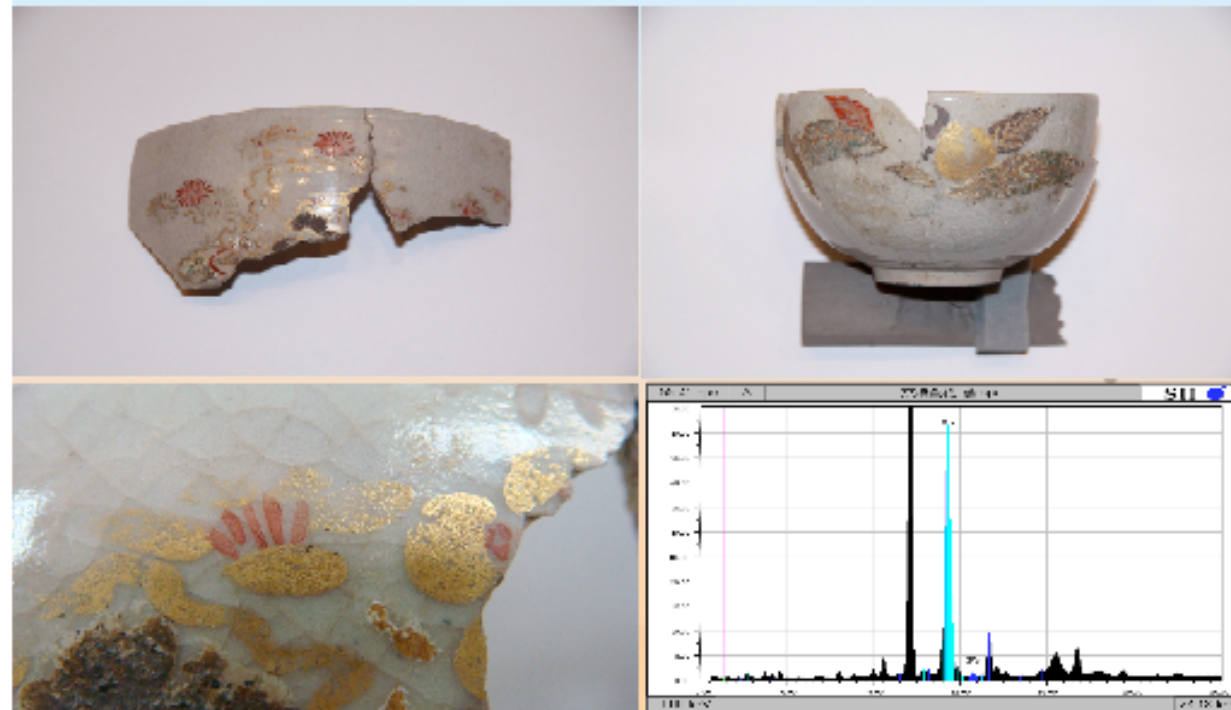
ベンガラによる赤い色絵の登場は？



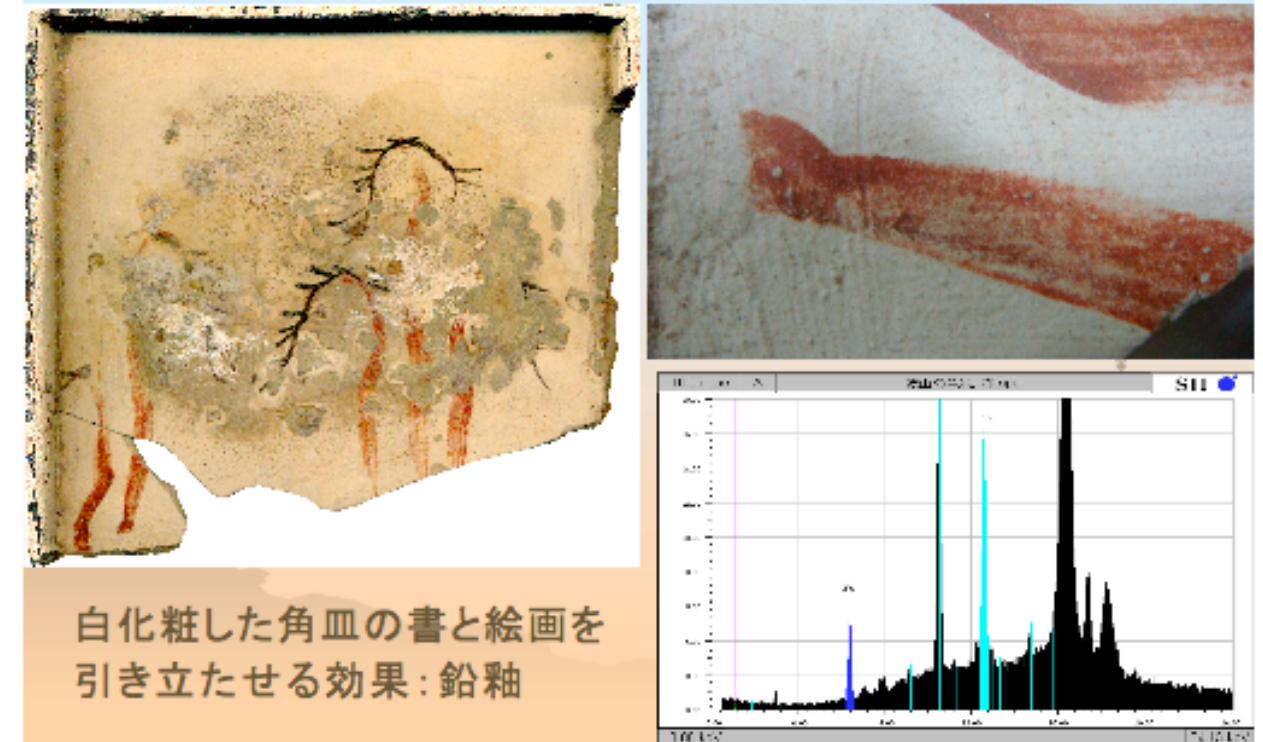
長石釉の始まり: 硬質施釉陶器の登場



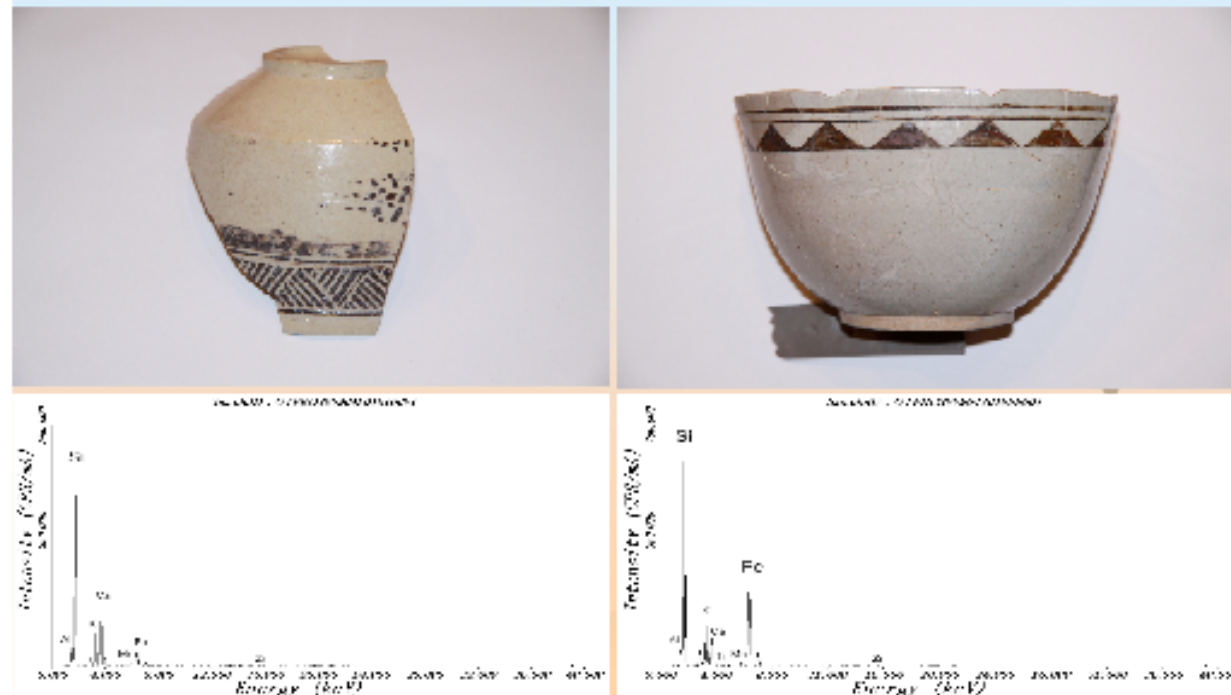
硬質で薄つくりの金襴手色絵陶器の登場



尾形乾山の作陶技術を調査する(2)



野々村仁清の作陶を調査する (長石釉＋鉄サビ釉の色絵)



初期京焼を科学する

-『特別展示 京焼の萌芽』の関連調査から-

おわり

ご静聴ありがとうございました。

○ 北野 信彦 (東京文化財研究所)

